

中央区文化・国際交流振興協会だより



「中央区のあらたなまち」 写真提供:中央区企画部政策企画課

● 特集 ●

中央区文化推進事業助成対象事業

江戸で養蚕の会

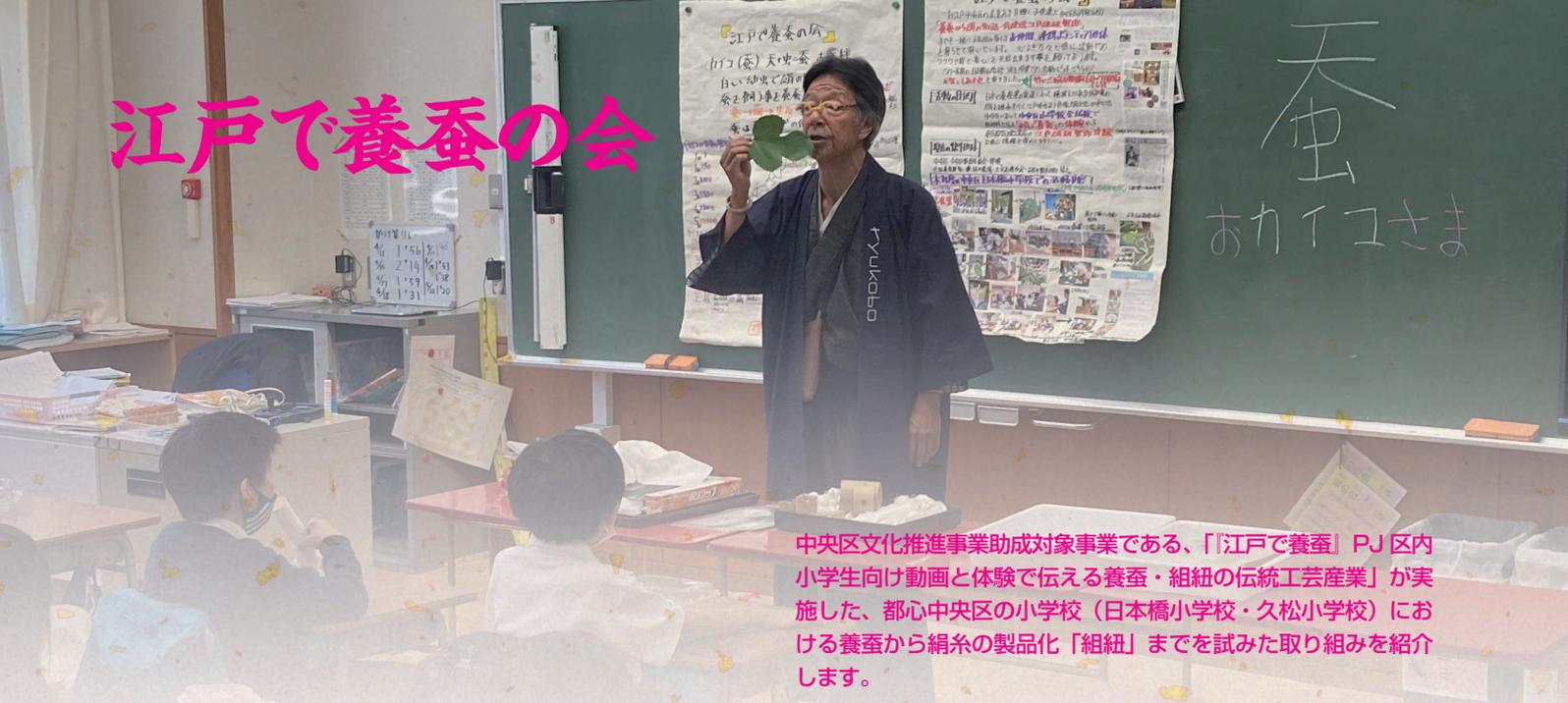
■ 令和6年度の事業計画と予算

■ 中央区 ひと 粋・活き 銀座かなめ屋・かんざし 和装小物展示館 銀座かなめ屋



Since 1991

江戸で養蚕の会



中央区文化推進事業助成対象事業である、「江戸で養蚕」PJ 区内小学生向け動画と体験で伝える養蚕・組紐の伝統工芸産業が実施した、都心中央区の小学校（日本橋小学校・久松小学校）における養蚕から絹糸の製品化「組紐」までを試みた取り組みを紹介します。



わずか1%に減少した 国産の絹、その伝統と 文化を絶やさぬために

「おかいこさまだー!」「ちっちゃい〜」「かわいい♪」

6月上旬、日本橋小学校3年1組の教室。卵から孵化したばかりの小さな小さな蚕を前に、子どもたちが目を輝かせ、歓声を上げました。

「この小さな蚕の赤ちゃんが約1ヶ月すると1万倍もの大きさに成長して『繭』というものを作ってくれます。それが『絹』というきれいな糸になるんです」

目を細め笑顔で説明するのは「江戸で養蚕の会」を立ち上げた福田さん。福田さんは、明治22（1889）年創業、日本橋富沢町にある「龍工房」で組紐を手がける職人です。伝統工芸従事者として「中央区功労者」をはじめ数々の表彰を受けるだけでなく、令和5（2023）年「春

ほうしょうの褒章」にて「おうじゅうほうしょう黄綬褒章」を受章、天皇陛下ともお言葉を交わした町の有名人です。

組紐は、日本に古くから伝わる絹を組みあげて作る紐で、江戸時代以降は着物の帯締めや羽織紐などで愛用されています。原材料の絹は明治時代に国を挙げて取り組んだ日本を代表する輸出製品で、外貨を調達するための大切な商品でした。しかし今では、純国産の絹は1%未満という危機的な状況を迎えています。

「中央区には数多くの伝統工芸品を扱う老舗がありますが、その店主らが口を揃えて言うのは『材料が手に入らなくなってきた』絹でいえば、外国産のものはありますが純国産のものは本当に希少なものになってしまっています。私どもの商いは絹がなければ成り立ちません。かつて区内でも重要な産業だった養蚕・絹文化も絶滅しつつあります。この伝統工芸を守り、継承していくためには、まず知ってもらう必要があります。そこで、未来

福田さんが講師となって、小学3年生に、養蚕のこと、組紐のことを伝えながら蚕の赤ちゃんを配ります。



福田 隆（ふくだ たかし）

昭和35（1960）年、東京都生まれ。大学卒業後、染織研究家の故山辺知行氏に一年間師事した後、龍工房へ。以来、意匠、染め、組みまですべてを総合プロデュースし、工房オリジナルの和装小物を製作。中尊寺金色堂、藤原秀衡懸守の紐の復元などにも取り組んできた。平成27（2015）年、東京都知事認定資格「伝統工芸士」。平成30（2018）年、平成30年度東京都優秀技能者（東京マイスター）、中央区功労者（伝統工芸従事者）表彰。令和元（2019）年、現代の名工。令和5（2023）年「黄綬褒章」受章。



「色は？形は？足はどうなってる？見えるままに観察スケッチしてみよう」と、日本橋小学校3年1組の野崎先生。

の中央区を担う子どもたちにこそ伝えていきたいという思いで『江戸で養蚕の会』を立ち上げ、先生方にご協力いただき、小学3年生の『総合的な学習』の授業として取り入れていただいています」と語る福田さん。



3年生が1年かけて 養蚕～組紐を体験

この取り組みは、桑の木の植樹から始まります。5月、小学校の敷地に蚕の餌となる桑の木を植える「桑の植樹会」を開催。6月、子供たちと一緒に養蚕に取り組みます。茨城県阿見町の「大日本蚕糸会蚕糸科学技術研究所」から卵を分けていただき、孵化した蚕の幼虫を子どもたちに配布して一人ひとりが自分の蚕の世話をします。冒頭で紹介した子どもたちの歓声は、蚕の幼虫を手にした時のものです。孵化して数日は「桑の羊羹」と呼ばれる人工飼料を与え、その後は桑の葉を与え続けます。1cmにも満たない小さな蚕が毎日2枚の桑の葉をたいらげ、およそ1ヶ月をかけて5回の脱皮をしながら約8cmにまで成長していきます。そしてある日突然、蚕の食が止まります。乳白色だった体は透明になり、死んでしまったのかと心配に……。すると、蚕はそそくさと小さな空間を見つけ、糸を吐きながら繭を作るのです。その一部始終を子どもたちが見守ります。

「はじめは『気持ち悪い……』と敬遠する子どももいますが、いつの間にか可愛がるようになっていきます。さっちゃん、けんちゃんなどと、まるでペットのように

名前をつける子もいるんですよ」と福田さん。

1週間単位で観察・記録を繰り返し、夏休みに入る前には立派な繭が出来上がります。9～10月、繭がどうやって糸になるのか「座繰り」という製糸体験を交え、蚕や組紐について知識を深めていきます。同時に、子どもたちが育てた繭が集められ群馬県にある「碓氷製糸(株)」にて製糸がおこなわれます。11～12月、子どもたちは校内で落ち葉を集めます。その落ち葉を使って、紡ぎあげられた絹糸を染めるのです。

日本橋小学校校庭と付近の街路樹の落ち葉による草木染めの色はとても淡く、何色とは言い表しづらい色ですが、いわば「その小学校のその年の色」唯一無二の色に染まります」

年が明けると、いよいよ組紐体験です。子どもたちの組紐体験に先駆けて、親御さんを集めた組紐ワークショップが開かれます。これは父母の皆さんに授業のアシスタントになっていただくためのレクチャー会です。そして、組紐体験授業の当日、福田さんを筆頭に父母の皆さんが、インストラクターとして子どもたちに組紐の技を伝授していきます。1時間かけて子どもたちは紐を組み、最後にプレスレットを作ります。

「できない子を出さない。そのためには、手取り足取り隣で教えてあげる人が必要です。私だけでは何十人もの子どもたち一人ひとりに教えてあげることができませんので、親御さんの力を借りています」

取り組みの初年度、令和5（2023）年度の授業ではプレスレットを作ったところまででしたが、福田さんは今年、もうワンステップまで進めようと意気込みます。



授業で使う「座繰り機」。今ではこの機械を作る職人さんも日本で数名です。



茨城県阿見町の「大日本蚕糸会蚕糸科学技術研究所」

20～25日間、育てた蚕。はじめはおっかなびっくりだった子どもたちもすっかり友達のように接するようになる。



子どもたちが育てた繭玉を「碓氷製糸(株)」さんに預け、絹糸にさせていただきます。

「今年は親御さんたちを交え、子どもたちによる発表会を催したいと思っています」



他区からも注目される 意義ある取り組み

福田さんと共に、組紐という伝統工芸を次世代そして世界にも広げようと取り組んでいる同じく「龍工房」の広瀬さんは、このプロジェクトの意義をこう語ります。

「蚕というのはただの虫ではなく産業動物です。動物の命をいただき人の営みに活用させてもらっている。そうした命の大切さを学べます。また、全国に比べて中央区の子どもたちは虫と触れ合う機会が少ない環境にあり、蚕に直接触れる日々は貴重です。今、足りていない『質学』を補える時間になっているのではないのでしょうか。こうした取り組みは単発的な体験が多く、継続的にやっているのは中央区ならではの、続けていくべきものだと思います」

先陣を切って、昨年1年間プログラムを実施した日本橋小学校の児玉校長は、こう振り返っています。

「実に3年生らしい総合的な学習の時間だなあと、組紐体験の授業を見ながら率直に感じました」

・桑の木栽培や蚕の飼育という3年生の発達にあった

体験的な活動であった

・地域人材の活用が学びの軸にあった

・保護者を巻き込む授業を展開していた

などのユニークさが評判になり、「うちでもやりたい」と区外の小学校からも依頼が舞い込んでいるそうです。

「でも……」と福田さん。「まずは中央区の全小学校で授業をやらせていただきたい。私の胸には“中央区プライド”がありまして、まずはこの町のために働きたい。はやく全小学校に展開したいと思っています」

しかし、1年に1～2校が限界だといいます。なぜなら、蚕は毎日桑の葉を食べないと死んでしまうため、週末は福田さんたちが餌やりに行かねばならず、マンパワーが足りていないのだそうです。蚕は文字通り、天から授かった虫。日本の豊かな自然風土の賜物です。困難はありますが、100年後にも養蚕、組紐といった絹文化を残していくために奮闘が続きます。理科(生物)、社会(産業や地域)、芸術(文化や工芸)、道徳など、複数の分野を横断した絶好の総合的な学びの場。取り組みは始まったばかりです。

「江戸で養蚕の会」ではボランティアスタッフを募集しています!

6～7月。桑の葉を準備したり、毎週末小学校に出向いて蚕の餌やりをしたりするスタッフが足りません。お手伝いしてくれる方が増えれば、区内の小学校の多くで授業を展開できます。同じ志を持っていただける方、お力を貸してください!

興味のある方は、ぜひこちらまでご連絡ください

●龍工房

電話：03-3664-2031

メール：ryukobo@silver.ocn.ne.jp

WEB：<https://ryukobo.jp/contact/>

(お問い合わせフォーム)

ユーチューブ
やっています
ぜひ御覧ください



インターネットで「ユーチューブ 江戸で養蚕の会」と検索すると見ることができます。



蚕から育てた絹糸を、学校の枯れ葉を集めた草木染めにして、自分たちで組紐を組んでプレスレットにします。

令和6年度の事業計画と予算の概要をお知らせします。
事業内容の詳細は決まり次第、協会のホームページや区のおしらせに掲載してまいります。

令和6年度事業計画

文化振興事業

1 機関誌発行・ホームページの管理運営

「中央区文化・国際交流振興協会だより」を定期的に発行するとともに、スマートフォンにも対応できる協会ホームページを活用して、協会の事業紹介や最新のイベント情報をお知らせいたします。

機関誌

部数：5,500部 A4判
発行回数：年2回発行（7月—81号 12月—82号）

ホームページ

URL: <https://www.chuo-ci.jp/>



2 芸術・文化の普及

(1) コンサート

親しみやすい音楽鑑賞の機会を提供し、区民の文化活動の推進を図ります。

開催予定：令和6年9月12（木）午後6時30分開演
会場：銀座プロッサム（中央会館）ホール
（日本橋公会堂「日本橋劇場」改修工事のため）

内容：手寫 葵 Concert 2024 ~ Trio ~
出演者：手寫 葵
参加費：2,000円
定員：800名



令和5年度コンサート

(2) 文化講座

中央区に縁のある文化や芸術、歴史等をテーマに専門家による連続講座を開催し、理解を深めるとともに、区民の文化意識の向上を図ります。

開催予定：令和6年10月 全3回
会場：本の森ちゅうおう 多目的ホール（予定）
内容：知れば知るほど奥深い！ 香辛料の世界（仮題）
講師：未定
参加費：無料
定員：80名



令和5年度文化講座

(3) 特別文化講演会

美術館・博物館で開催される展覧会に関連した講演会を、NHKとの共催により年3回程度開催し、区民の文化意識の向上を図ります。
なお、聴講した各受講者には、NHKから展覧会の入場券（1枚）が贈呈されます。

1 回目

東京国立博物館 特別展「法然と極楽浄土」
開催日時：令和6年4月24日（水）午後6時50分開演
会場：日本橋公会堂ホール「日本橋劇場」
演題：特別展「法然と極楽浄土」のみどころ
講師：瀬谷 愛（東京国立博物館 列品管理課登録室長）

参加費：無料
参加者：329名

2 回目

東京国立博物館 創建1200年記念 特別展「神護寺—空海と真言密教のはじまり」
開催日時：令和6年7月29日（月）午後6時50分開演
会場：日本橋社会教育会館ホール
演題：「神護寺展の見どころ —創建1200年の軌跡と奇跡—」
講師：古川 攝一（東京国立博物館 教育課教育普及室研究員）

参加費：無料
定員：200名
3回目以降は未定

(4) 古典芸能鑑賞会

中央区に深い関わりをもつ古典芸能を鑑賞する機会を提供し、伝統文化に対する愛着心を育むとともに、その継承・普及を図ります。企画・制作は、中央区を中心に活動する古典芸能実演家で構成する「中央区古典芸能の会」に委託しています。

開催日時：令和6年5月25日（土）午後5時開演
会場：日本橋公会堂ホール「日本橋劇場」
内容：講話「つたやじゅうざぶろう 蔦屋重三郎がいた街～中央区江戸浮世絵師雑話～」、演奏 きよもと かんだまつり 清元「神田祭」、落語 ひものぼこ 「干物箱」、舞踊 やまとがく だんじゅうろうむすめ 大和楽「団十郎娘」

参加費：2,000円（中学生以下は1,000円）
参加者：298名（中学生以下8名を含む）



令和6年度古典芸能鑑賞会

(5) 文化推進事業助成

中央区内の文化活動を一層振興していくため、区民等による文化活動等に対しその経費の一部を助成するとともに、後援を行います。

- ①文化創造・発信事業助成
助成金額：当該事業の対象経費の9/10の範囲内（上限200万円）
- ②文化団体活動助成
助成金額：当該団体活動の対象経費の1/2の範囲内（上限40万円）
- ③文化推進事業助成

助成金額：当該事業の対象経費の1/2の範囲内（上限10万円）

(6) 中央区まるごとミュージアム

区民や来街者が区内各所で行われるさまざまな文化事業を体験できる総合的な文化イベントを中央区と共催で開催します。（17回目）

開催予定：令和6年11月10日（日）

会場：中央区全域

(7) 文化振興プロデュースチーム

「中央区文化振興プラン」の提言（平成20年度3月）に基づき、区民（企業、NPO等を含む）の自主的な文化活動の推進・拡大を図るため、中央区と協会が協力して平成20年度に文化の専門家等からなるプロデュースチームを設置しました。今後も、区内の文化事業のさらなる充実・発展に資するため、適宜助言をいただいております。

構成員：6名（検討項目によって委員を追加します。）

Time Schedule: Once a month (11 times a year), on Saturday afternoon.

Place: Gender Equality Center, “Bouquet 21” etc.

Events: Seaweed, Japanese Sweets, Tea Ceremony, New Sports, Emergency Drill, etc.



令和5年度国際交流サロン（附け打ち）

(3) 日本語教室

日本語でのコミュニケーションが困難な区内在住・在勤の外国人等（以下「学習者」という。）を対象に、ボランティアが日本語を指導する（以下「日本語ボランティア」という。）協会主催の教室を運営します。

このほか、年々増え続ける教室参加希望者やその多様化に対応するため、日本語ボランティアが主催する各教室に対して、運営に要する経費の助成や後援名義の使用、学習者紹介等の支援を行っています。

[協会主催の日本語教室]

教室	①水曜日教室	②木曜日教室	③土曜日教室
開催予定	毎月第1・2・3水曜日（8月を除く） 午後6時30分～8時	毎月第1・2・3木曜日（8月を除く） 午前10時～11時45分	毎月第2・3・4土曜日（8月は第2・3土曜日を除く） 午前10時～11時45分
会場	男女平等センター「ブーケ21」	協会講習室または新富区民館	協会講習室または新富区民館



令和5年度日本語教室

国際交流振興事業

(1) 国際交流のつどい

外国人と日本人との交流を推進するため、日本の伝統文化等を紹介するとともに、外国文化にも触れられる交流イベントを開催します。

開催予定：令和6年11月16日（土）正午～午後4時

会場：築地社会教育会館

内容：伝統文化体験コーナー、防災コーナー等

(1) INTERNATIONAL EXCHANGE PARTY

This event is to be held once a year to promote cultural exchange as well as deepen mutual understanding between Japanese and non-Japanese residents. Please come and experience Japanese traditional culture and various attractions!

Date & Time: Sat., November 16, 2024 12:00 – 16:00

Place: Tsukiji Social Education Center

Events: Experiences of Japanese traditional culture, Disaster Preparedness, etc.



令和5年度国際交流のつどい（お茶）

(2) 国際交流サロン

区内在住・在勤・在学の外国人と日本人が、日本の文化等を体験できるイベントを通じて交流を楽しめる場を提供します。

開催予定：毎月1回（年11回）土曜日の午後

会場：男女平等センター「ブーケ21」ほか

内容：海苔、和菓子、茶道、ニュースポーツ、防災等

(2) INTERNATIONAL EXCHANGE SALON

With the help of International Exchange Salon volunteers, we will hold various events on cultural experiences where both Japanese and non-Japanese residents can enjoy free and open communication.

[協会が支援する日本語教室]

教室	①ワールドフレンズ 日曜にほんごクラブ	②日本語 おたすけたい	③月島日本語倶楽部
開催予定	毎週日曜日 午前10時～11時30分	月曜日（月3回） 午後7時～8時30分	毎週火曜日 午前10時～11時50分
会場	日本橋社会教育会館	日本橋社会教育会館	月島社会教育会館
教室	④日本語コミュニケーション・パートナー	⑤銀座日本語教室	⑥にこにこ日本語
開催予定	火曜日（月3回） 午後7時～8時30分	毎月第1・2・3水曜日（8月を除く） 午前10時～11時30分	木曜日（月3回）（8月を除く） 午後7時～8時30分
会場	新富区民館	築地社会教育会館	佃区民館
教室	⑦CNC月島 <令和5年12月1日活動開始>	⑧にほんご生活	
開催予定	毎月第1・2・3金曜日（8月を除く） 午前10時～11時45分	毎週土曜日 午後2時～3時30分	
会場	月島区民館	築地教会 別棟	

※⑧の教室は、オンラインと対面学習を併用して実施。

(3) JAPANESE LANGUAGE CLASSES

Chuo Cultural and International Exchange Association (CCIEA) offers Japanese Language classes by volunteer teachers. Besides, we sponsor the classes which are hosted by volunteers to accommodate the increasing number of participants and diversifying needs.

I Japanese Classes that we host:

Class	① Wednesday Class	② Thursday Class	③ Saturday Class
Schedule	The 1st, 2nd & 3rd Wednesdays (Except August)	The 1st, 2nd & 3rd Thursdays (Except August)	The 2nd, 3rd & 4th Saturdays (Except the 2nd & 3rd Saturdays in August)
Time	18:30~20:00	10:00~11:45	10:00~11:45
Place	Gender Equality Center "Bouquet 21"	CCIEA Office Lecture Room or Shintomi Community Hall	CCIEA Office Lecture Room or Shintomi Community Hall
Fee	About ¥2,500 (no fee for the lesson, only for the textbook)		

II Other Japanese Classes that we sponsor:

Class	① World Friends Sunday Japanese Club	② Nihongo Otasuketai	③ Tsukishima Nihongo Club
Schedule	Every Sunday	Monday (3 times per month)	Every Tuesday
Time	10:00~11:30	19:00~20:30	10:00~11:50
Place	Nihonbashi Social Education Center	Nihonbashi Social Education Center	Tsukishima Social Education Center
Class	④ Partners of NIHONGO Communication	⑤ Ginza Japanese Language Class	⑥ NIKO NIKO NIHONGO
Schedule	Tuesday (3 times per month)	The 1st, 2nd & 3rd Wednesdays (Except August)	Thursday (3 times per month) (Except August)
Time	19:00~20:30	10:00~11:30	19:00~20:30
Place	Shintomi Community Hall	Tsukiji Social Education Center	Tsukuda Community Hall
Class	⑦ CNC Tsukishima <since Dec. 2023>	⑧ Nihongo Seikatsu	
Schedule	The 1st, 2nd & 3rd Fridays (Except August)	Every Saturday	
Time	10:00~11:45	14:00~15:30	
Place	Tsukishima Community Hall	Tsukiji Church Annex	
Fee	Fees differ depending on the class.		

※ Class ⑧ uses a combination of online and face-to-face learning.

(4) 日本語指導者養成講座

日本語教室受講希望者の増加に対応するとともに、協会やボランティアが主催する教室活動を充実させるため、将来の日本語ボランティアを養成する協会独自の日本語指導者養成講座を開催します。

開催予定：令和6年6月～9月、全44時間
 講師：明海大学外国語学部 准教授 西川寛之
 受講者数：32名

(5) 日本語ステップアップ講座

各教室で活動する日本語ボランティアの学習需要に対応するとともに、指導力・技法のレベルアップを図ります。また、直近の養成講座修了生のためのフォローアップ講座も開催します。

開催予定：年間6回（14時間）
 ①目の前の学習者が求める支援とは何かを考えよう！
 開催日時：令和6年6月22日（土）

午後5時45分～8時45分

会場：新富区民館
 講師：西川寛之（明海大学外国語学部准教授）
 受講者数：29名
 2回目以降は計画中

(6) ボランティア活動支援

協会登録ボランティアの資質向上と活動支援のため、研修会などを開催します。

また、中央区から依頼があったとき、協会登録のボランティアを区の事業等に派遣します。

ボランティアの種類及び登録者数(令和6年3月末日現在)

登録者数：352名（実人員）

- ①通訳・翻訳ボランティア：103名
- ②イベントスタッフボランティア：189名
- ③日本語ボランティア：220名
- ④国際交流サロンボランティア：12名
- ⑤防災語学ボランティア：63名

ボランティア研修会

開催予定：年間2回

(7) 姉妹都市親善写真展

中央区と姉妹都市であるオーストラリア・サザランド市との親善を一層深めるため、お互いの生活や風景、行事等を紹介する写真を交換し、写真展を開催します。

開催予定：令和7年2月

会場：3箇所で開催（区役所、日本橋区民センター、月島区民センター各1階）

(8) 国際交流推進事業助成

協会の目的である国際交流を振興するため、区民が主体となっていく国際交流事業に対して事業の実施に要する経費の一部を助成及び後援します。

助成金額：当該事業の対象経費の1/2の範囲内（上限10万円）

令和6年度予算

<収入>

科目	予算額(円)	説明
事業収入	2,045,000	コンサート、古典芸能鑑賞会参加費等
区補助金	123,222,000	区からの補助金
寄付金	1,000	
雑入	1,000	預金利子
収入合計	125,269,000	

<支出>

科目	予算額(円)	説明
事業費	80,455,000	
文化振興費	74,224,000	文化振興事業に要する経費
国際交流振興費	6,231,000	国際交流振興事業に要する経費
管理費	44,314,000	
人件費	40,671,000	職員の給与に関する経費
管理運営費	3,643,000	理事会、事務費等
予備費	500,000	
支出合計	125,269,000	

銀座かなめ屋 和装小物展示館



着物は日本の伝統衣装です
誰もが自分で着られる世の中に

今年、創業90周年を迎えた「銀座かなめ屋」は銀座8丁目にある和装小物店です。高級品のべっ甲の簪をはじめ、頭先のからつま先まで和装小物がなんでも揃います。三代目の柴田光治さんにお話を伺いました。

お店の歴史について教えてください。

昭和9(1934)年、祖父がべっ甲かんざし日本橋で創業、昭和20(1945)年にこの地に移転。当時はこのあたりも1階が店舗、2階が事務所・倉庫兼住居という家が多く、わが家も然り。この通りは「見番通り」といって、芸者さんたちの事務所やお稽古場があり、肌着や足袋の専門店、和装小物の商店が沢山ありました。初代の頃は花柳界も賑やか、みんなが普段から着物を着ていました。父の時代に入り、着物を着る人は徐々に減り、花柳界の賑わいも減速。そこで好景気に沸く銀座の地の利を生かし、和服でご商売を営むお客様に対応した品揃えに。しかし、その後バブルのはじけ、リーマンショック、東日本大震災と続き、銀座の活気も減速し始めた中、平成23(2011)年、入社15年目にして私が三代目を継ぎました。

銀座は外国人観光客も多い街です。反応はいかがですか？

べっ甲はタイマイというウミガメの甲羅を「水」と「熱」により何層にも圧着して作ります。

日本におけるべっ甲の発祥地は長崎で、鎖国時代に出島を訪れる外国人に土産品としてべっ甲で調度品や装身具などを製作していました。数年前にもべっ甲の簪がほしいとアメリカ人のお客様が来ましたが、ワシントン条約により現在はべっ甲製品の国外持ち出しはできません。もちろん原料も30年前から輸入禁止です。自然資源としてもそもそも有限でしたが、条約によりべっ甲はさらに貴重なものに。近年、石垣島でタイマイの養殖が行われていますが、職人の減少が気かりです。

三代目のこだわり、そして、夢は？

弊社は小売専門店です。和装小物を取扱う問屋やメーカー、そして何よりも私ども、そしてお客様のご満足のいく製品を作ってください職人が居なくては成り立ちません。伝統の技は一度失われると二度と取り戻せません。買い手よし、売り手よし、世間=作り手よしの「三方よし」の好循環を巡らせていくために、15年ほど前からSNSを始めました。弊社は、着物をお召しになるときに必要な肌着類を含めた装身具一式、すべて実用品を取り扱います。着物をお召しになる日本人がこのまま減少すれば、それら和装小物に携わる職人の技術も失われていくことでしょう。着物は日本の伝統衣装。せめて浴衣ぐらい自分で着れるように、ぜひとも義務教育の一環に取り入れて、浴衣を着て盆踊りや花火大会に行けるようにしてほしいものです。



べっ甲かんざし

●プロフィール

日本のかけがえのない大切な伝統工芸、和装文化を後世へと伝えていきたいという、銀座かなめ屋、三代目の柴田 光治さん。

●銀座かなめ屋・かんざし和装小物展示館

東京都中央区銀座8-7-18(見番通り)かなめ屋ビル1F

03-3571-1715

<https://www.kanameya.co.jp/>

月～土曜日(祝日・年末年始等を除く)

平日/11:00～20:30

土曜/12:00～19:00

銀座駅B3番出口 徒歩5分

新橋駅銀座口 徒歩3分

●中央区まちかど展示館 ウェブサイト

<https://www.chuoku-machikadotenjikan.jp/>



店舗内観、外観



包装紙にも使われているかんざし

中央区文化・国際交流振興協会役員名簿

(令和6年7月11日現在)

理事長	三田 芳裕	中央区観光協会副会長
副理事長	田中 智彦	中央区副区長
理事	秋元 一孝	東京商工会議所中央支部副会長
〃	柴川 賢	中央区商店街連合会会長
〃	森山 照明	中央区工業団体連合会会長
〃	前田 光弘	東京日本橋東ロータリークラブ元会長
〃	五味 達夫	東京銀座ライオンズクラブ元会長
〃	西村 昇	京橋地域町会連合会会長
〃	清水 貞男	日本橋地域町会連合会会長
〃	滝浪 誠	月島地域町会連合会会長
〃	石本 正幸	中央区文化連盟連絡協議会会長
〃	木本 慎一	中央区スポーツ協会理事長
〃	府川 晃久	中央区PTA連合会会長
〃	鳥井 大吾	東京青年会議所中央区委員会委員長
〃	濱田 徹	中央区区民部長
〃	北澤千恵子	中央区教育委員会事務局次長
監事	竹沢えり子	中央区まちかど展示館運営協議会会長
〃	山崎 健順	中央区会計管理者

表紙 中央区のあらたなまち

写真提供：中央区企画部政策企画課

令和6(2024)年1月から晴海フラッグの入居が始まり、選手村は新たなまちに変貌を遂げました。4月には築地市場跡地の開発事業予定者が決まり、地域と調和・連携した発展が期待されています。力強い人口増加の中、新たな方も含めて、人と人をつなぐものは本区の多彩な文化にはかきません。今後とも、皆さまとともに区内文化の振興・発展に努めてまいりますので、ご協力をお願いいたします。

特集は、区内小学校において養蚕から絹糸の製品化までを試みた、中央区文化推進事業助成対象事業である「江戸で養蚕の会」の取り組みを紹介しました。

「ひと 粹・活き」では、中央区が誇る文化資源を紹介する「中央区まちかど展示館」の一つであり、昭和9(1934)年創業、銀座通の作家も通う粋な和装小物の名店「銀座かなめ屋」3代目店主の柴田 光治さんにお話を伺いました。